

「多層指導モデル MIM 教材の活用を普及していくために」

長者小学校教諭 久武夕希子

1. 多層指導モデル MIM との出会い

私と多層指導モデル MIM（以下 MIM と略）の出会いは、2014 年 8 月の校内研で講師の田辺敦子先生（当時はりまや橋小学校勤務）から紹介された時である。「読みに困難を抱えるお子さんが、楽しんで取り組み、読むスピードも理解力も向上した。」という実践例に、半信半疑ながら「子どもたちが大好きな教材。」という言葉に惹かれ、この教材との付き合いが始まった。

☆M I Mとは



【M I M教材】

MIMとは、Multilayer Instruction Model の略で、多層指導モデルという意味です。多層指導モデル MIM で、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していきます。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことをめざしています。

MIM-PM（Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring）は、学習が進んでいくに連れ、つまずきが顕在化する子どもを、つまずく前の段階で把握し、指導につなげていくためのアセスメントです。

（HP「多層指導モデルM I M」より）

小学校1年生が学習する特殊音節（小さい「つ」「や」「ゆ」「よ」や長音など）に焦点を絞り、読みの流暢性を図るのがこのM I Mの目的である。児童一人一人の実態をアセスメントし、つまずく前に指導・支援を行って一人も落ちこぼさない、ということを目指している。

2. 長者小学校での試行と成果

☆導入のきっかけ

8月の校内研で田辺先生のお話を伺った時に、2人の児童が目につかんだ。3年生と4年生の児童で、どちらも学力の遅れが心配されていた。そこで12月からこの2人とM I M教材を使った小集団学習を開始した。3月末には2人とも読みのスピードにかなりの向上が見られたため、2015年度から全校で取り組むことになった。

☆活用のしかた

- ・全校：毎月のアセスメントとそれに向けてのウォーミングアップ、早口言葉大会

- ・1年生：通常の国語の時間での活用
- ・3rd ステージ（読みのスピードが著しく遅い）の児童：小集団学習（MIMグループ）

	月	火	水	木	金
朝自習		MIM		MIM	
1時間目					
2時間目					
3時間目					
4時間目					
給食 昼休み					
そうじ					
読書タイム	MIM+α	MIM+α	視写	MIM+α	MIM+α
5時間目					
6時間目					
				くんとんタイム MIM	

左の時間割表は、小集団学習を行っているMIMグループの時間割表である。

- ・朝自習 8：25～8：40
2日間
- ・読書タイム 13：45～14：00
4日間

※MIMグループの児童は、Ist ステージに達した時点で、MIMグループから卒業することにした。

【MIMグループの時間割表】

☆成果

どの児童にも読みのスピードの向上が見られた。MIMグループの児童も順次Ist ステージに到達し、7名中（うち特別支援学級児童1名を含む）5名がMIMグループを卒業していった。

A児	3年生 (MIM実施前)		5年生 (MIM実施)	
	得点率	実現状況	得点率	実現状況
「読む」能力	30点	C	46点	B
「書く」能力	得点率	実現状況	得点率	実現状況
	28点	C	50点	B

B児	2年生 (MIM実施前)		3年生 (MIM実施)	
	得点率	実現状況	得点率	実現状況
「読む」能力	35点	C	61点	B
「書く」能力	得点率	実現状況	得点率	実現状況
	57点	B	71点	A

左の表は、2014年度に先行実施した3年生A児と2015年度からMIMグループに入った2年生B児のCRTの「MIM実施前」と「MIM実施後」の結果である。「読む」能力「書く」能力ともに向上が見られる。MIM教材活用が向上の全ての要因とは言い切れないが、少なくともその一端は担っていると思われる。

2017年度は、5・6年生は全員Ist ステージに達しているため、1年生から4年生までがMIM教材を活用して学習し、全校では「早口言葉大会」に取り組んでいる。

3. 町内小学校への普及

☆仁淀川町教育委員会の取り組み

2015年度から、仁淀川町教育委員会がM I M教材活用の普及を目指して、以下のよう
な取り組みを行った。

- ・夏休み：町教育研修会に大学教員を招き、M I Mについての研修会開催。
- ・2学期～3学期：M I Mについて更なる理解を深めるために、町内全小中学校の校
内研に上記の大学教員を派遣。
- ・3学期：町内全小学校にM I M教材を配布。

この取り組みによって、町内ではそれまでほとんど知られていなかったM I Mについ
ての理解が深まり、「子どもが楽しんで学べそう。」「これなら読みの力が伸びていくだ
ろう。」「教えやすそうだ。」といった肯定的な感想が多くあがった。

一方で、次のような質問が多く寄せられ、M I M教材が手元にあるものの十分に活用
できていない実態が浮き彫りになってきた。

- ・どの時間帯に指導するのか。
- ・指導体制はどうすればいいか。
- ・教材の使い方が分からない。
- ・1年生担任がこの教材を活用しているみたいだが、他の教員はよくわかっていない。

そこで、読みに困難さを抱える児童へのよりよい支援につなげるためにM I M教材が
多くの現場で活用されるための方策を検討することにした。

☆筆者の取り組み

【方法】

①町内全小学校（3校）の校内研でM I Mについての講習を行った。

- ・多層指導モデルの概念とそれに照らし合わせた指導のための実際の時間割や指導体
制について
- ・教員を対象に模擬授業の実施

②M I M教材活用のシステム化、教材の「見える化」を図った。

- ・ハンドブック作り
- ・教材の置き場所の工夫

☆結果と考察

①校内研での講習

多層指導モデルの概念とどの時間帯に指導するかを明記した時間割、その時の指導
体制を照らし合わせて提示することで、全ての子どもに対してつまずく前に指導・支
援を提供していくというM I Mの概念を具体的に伝えることができた。

M I Mには、すぐに使える教材が豊富に用意されており、ガイドブックには様々な指導例が紹介されている。ところがM I M初心者からは「多すぎて何をどの順番で使ったらいいかが分からない。」という声も多く上がっていた。そこで、以下の要素を盛り込んだ、1年生へのM I M教材導入第1時間目の模擬授業を行った。

【M I M教材導入第1時間目】

- ・ ルール説明
 動作化、視覚化のための記号の説明
- ・ 言葉絵カードの使い方
- ・ 「ちよっとかわったよみかたのかきとりしゅう」の説明
- ・ 読み書きに関するゲーム

この模擬授業は大変好評で「やっと教材の使い方が分かった。」「これならすぐにでも取り組める。」等の声が多く聞かれた。

豊富な教材の中から、基本的な指導例を提案することで、M I M教材全体のイメージがつかめ、指導に取り掛かりやすくなったのではないと思われる。

また「動画で分かる！ 特殊音節指導の工夫（東京書籍）」を参考にして模擬授業を行ったが、それぞれの学校でも研鑽を積んで指導技術向上を図っていく必要がある。

②M I M教材活用のシステム化、教材の「見える化」

「担当者と1年生担任だけがわかっている。」といった現状を打破し、校内の協働体制を構築していくためには、活用のためのシステムが必要と思われる。そこで、誰にとってもわかりやすいハンドブックを作成し、町内全小学校へ配布した。

【ハンドブック】

- 内容：1. M I M教材活用の進め方
2. 指導の実際と準備物
3. 準備物まとめ

各校、このハンドブックをもとにM I M指導体制を整え始めたところであるが、M I M教材パッケージの中のCDに収められているたくさんのファイル類の内容理解が十分にできない、とのことであった。そこで、CDの中身を「見える化」するために、プリントアウト・分類・ラベリング等を行い、目につく場所（写真：印刷室の本棚の1段）に保管するようにした。



【長者小学校のMIM教材の視覚化】

この写真は、ハンドブックとセットにし他校へ配布したが好評であった。一目でわかること、手に取って内容を吟味できること、そして必要な物はすぐ使えるように大量に印刷してあることなどが、その要因であると思われる。

4. 今後の課題

2017年度、町内全小学校でMIM教材の活用が始まった。

1年生担任やMIM担当者がかわっても、継続して取り組めるように以下のことが課題だと思われる。

- ・全教職員の共通理解を図る。
 - ➡児童の毎月のアセスメント結果を共有することで児童理解の一助となり、また日々の指導・支援にいかすことができる。
- ・各職場でのシステム化を図る。
 - ➡一部の教職員に負担をかけないように役割分担をし、日々短時間で取り組めるような指導体制の構築と時間設定を行う。

仁淀川町全体としては、各校の担当者を中心にチームを作り、情報交換や更なる研修を行いながらよりよい支援体制を確立し、町内すべての子どもがそれぞれの可能性を發揮できるよう、取り組みを進めていきたい。

参考文献：『多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子編著』